

# 算 数（小学校）

## 1 改訂の基本的な考え方

### ○ 平成28年12月21日の中央教育審議会答申を踏まえての改訂

- ・PISA2015 では、数学的リテラシーの平均得点は国際的に見ると高く、引き続き上位グループに位置しているなどの成果が見られる。一方、上位層の割合はトップレベルの国・地域よりも低い結果となっている。
- ・TIMSS2015 では、小・中学生の算数・数学の平均得点は 1995 年以降最も良好な結果となっている。
- ・全国学力学習状況調査等の結果から「基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること」「事柄が成り立つことを図形の性質に関連付けること」が課題として指摘されている。

### ○ 数学的活動の充実

- ・実社会との関わりと算数・数学を統合的・発展的に構成していくことを意識して数学的活動を充実させる。

### ○ 統計的な内容等の改善・充実

- ・社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意志決定をしたりする能力を育成するため、統計的な内容を充実させる。

## 2 改善・充実の具体的事項

### ○ 目標の示し方について

- ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理して示している。

### ○ 算数科の学習における「数学的な見方・考え方」について

- ・事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えることとする。
- ・資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」全てに働かせるものである。

### ○ 算数科の学びの過程としての数学的活動の充実

- ・数学的活動とは、事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行することである。
- ・小・中・高等学校教育を通じて資質・能力の育成を目指す際に行われるものであり、従来の算数的活動を問題発見や問題解決の過程に位置付けてより明確にし、数学的活動とする。
- ・各領域に示す全ての事項において、数学的活動を通じた指導を行うことを求めている。

### ○ 算数科の目標及び内容について

- ・学年の目標は資質・能力を三つの柱に沿って、指導事項のまとまりごとに、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等をそれぞれ分けて示し、各学年で指導すべき主な内容に対応させている。
- ・下学年は「A 数と計算」「B 図形」「C 測定」「D データの活用」の4つの領域とし、上学年は「A 数と計算」「B 図形」「C 変化と関係」及び「D データの活用」の4つの領域とする。

### ○ 指導内容の充実

- ・数や式、表、グラフといった数学的な表現を用いて、筋道を立てて考え表現したりすることを重視する。
- ・統計的な内容の充実については、各学年の「D データの活用」の（内容の取扱い）等示している。
- ・プログラミング教育については、プログラミング的思考を身につけることが重要である。詳細は内容の取扱いについての配慮事項等示している。

## 3 移行措置について

- ・令和元年度については第3学年、第4学年及び第5学年に移行内容があるので、履修漏れのないよう留意する。